

## 「三体小学校の三体棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

霧島市立三体小学校

### 2 学年・人数

1年生4人，2年生2人，3年生6人，4年生2人，5年生3人，6年生3人，計20人

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

9月10日（日） 午後4時30分～午後6時 三体小学校

9月21日（木） 午後6時～午後7時 三体小学校

#### (2) 発表の日時・場所

9月23日（土） 午後1時～午後1時15分 三体小学校運動会

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

#### (1) 名称

三体棒踊り（さんたいぼうおどり）

#### (2) 由来

約140年前，西南の役の田原坂での戦いで敗れた薩摩の兵を弔うために始められたといわれている。昭和25年までは，地域行事で毎年披露されていたが，その後途絶えてしまった。昭和51年に再び披露されるようになり，昭和61年まで敬老会と運動会で踊られていた。しかし，再び途絶えてしまい，平成4年に再び復活し，現在まで伝承し続けている。

#### (3) 構成等

浴衣とはちまきを身に着け，5尺の棒や小太刀を持ち，左右，前後の者同士が入れ替わりながら，歌に合わせてかけ声を出すとともに，棒を打ち合う。1回当たり1分30秒程度だが，それを3回以上繰り返して行う。

### 5 保存会や地域との連携の具体

平成10年に三体棒踊り保存会が発足し，指導者3人，4年生以上31人で，保存会としての活動を始めた。その後，児童数の減少により，一昨年から1年生以上（場合によっては中学生も）で構成するようになってきた。人数の減少，低年齢化はあるものの，校区を中心として，地域全体での支援態勢が整ってきている。

必要な経費も多いが，霧島市や三体地区自治公民館からの補助を受け，円滑な活動が進められている。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

一昨年度から希望参加制にし，10人のみの参加であったが，昨年度から全児童が参加を希望するようになり，活気づいてきている。

参加児童は，習い事やスポーツ少年団活動にも取り組んでおり，練習回数や時間が限られている。短時間で効率よく練習をし，踊り方を習得していくために，中学生が指導に加わることもある。また，衣装の着付けについては，保護者の全面的な協力，保存会OBの支援によって成り立っている。

## 7 取組の様子

9月23日(土)運動会



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### (1) 参加児童

練習は大変だったが、披露の時、装束を身につけると気が引き締まって上手に踊ることができた。見ている人から沢山の拍手をいただき、緊張しながらも涙が出るぐらいうれしかった。また、来年も挑戦したいと思う。三体夏祭りでも披露する予定だったが祭りが中止となり残念だった。

### (2) 保護者

自分が小学生の頃に必死に練習した棒踊りを自分の子どもが体験できていることが誇らしく思えた。大変な練習や準備があるが、これからもできる限り協力していきたいと思っている。

### (3) 保存会

昨年度から全校児童で取り組めるようになり、伝承活動が活気づいてきている。披露までの練習や準備には、苦労があるが、地域の伝統芸能としての棒踊りを通して地域の伝統と誇りを次の世代に伝えていきたい。

### (4) 教職員

子どもたちが地域の方々と一緒に汗を流す姿を見ると子どもたちの心も体も磨かれている感じを受ける。棒踊りに参加した子どもたちは、どの子もやり遂げた喜びと自信に満ち、成長できたことを実感している。地域や保護者の方々と協力して素晴らしい教育活動が展開できている。